

令和3年度病虫害発生予報第12号（4月予報）概要表

令和4年3月24日
埼玉県病虫害防除所

作物名・病虫害名		予報内容	
		発生時期	発生量
1 麦			
(1)	さび病（コムギ赤さび病、オオムギ小さび病）		並
(2)	うどんこ病		並
(3)	赤かび病		並※
(4)	アブラムシ類		並
2 なし			
(1)	黒星病	並	並※
3 トマト			
(1)	灰色かび病		やや少
(2)	葉かび病		やや少
(3)	黄化葉巻病		並
(4)	コナジラミ類		やや多
4 きゅうり			
(1)	べと病		やや少
(2)	うどんこ病		並
(3)	褐斑病		やや少
(4)	アザミウマ類		並
(5)	コナジラミ類		並

・ 予報の発生量は予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並」と示しています。

・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

作物名・病害虫名		予報内容	
		発生時期	発生量
5 いちご			
(1)	灰色かび病		並
(2)	うどんこ病		並
(3)	アザミウマ類		多
(4)	アブラムシ類		やや多
(5)	ハダニ類		やや多
(6)	コナジラミ類		多
6 茶			
(1)	チャノホソガ (第1世代成虫)		並
(2)	カンザワハダニ		やや多
(3)	ツマグロアオカスミカメ		やや多

・ 予報の発生量は予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並」と示しています。

・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。

令和3年度病害虫発生予報第12号（4月予報）

令和4年3月24日
埼玉県病害虫防除所

1 向こう1か月間（4月）の予報

作物名	病害虫名	発生予想	予報の根拠 及び 防除上注意すべき事項
麦	さび病 〔コムギ赤さび病 オオムギ小さび病〕	発生量	【現況】 ・－
		並	【根拠】 ・前年の発生量は平年並。（±） ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。（±）
			【防除上の注意】 ・窒素質肥料の過多などにより、過繁茂となっているほ場では、発生しやすいため、ほ場をよく観察し、初期防除に努める。
	うどんこ病	発生量	【現況】 ・－
赤かび病	並※	【根拠】 ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。（±）	
		【防除上の注意】 ・現在の生育状況から、出穂期は平年並程度になると考えられる。 ・防除適期の目安は、小麦では出穂の7～10日後、六条大麦では穂揃期、二条大麦（ビール麦）では穂揃期の10日後である。ほ場をよく観察し、防除適期に薬剤による防除を実施する。	
		【防除上の注意】 ・現在の生育状況から、出穂期は平年並程度になると考えられる。 ・防除適期の目安は、小麦では出穂の7～10日後、六条大麦では穂揃期、二条大麦（ビール麦）では穂揃期の10日後である。ほ場をよく観察し、防除適期に薬剤による防除を実施する。	
アブラムシ類	発生量	【現況】 ・－	
		【根拠】 ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。（+）	
		【防除上の注意】 ・テントウムシ類等の捕食による密度低減効果を高めるため、天敵の温存を心がける。 ・出穂すると穂に移動して加害するため、防除適期である出穂前後に薬剤による防除を実施する。	

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 発生時期、発生量の予想は、巡回調査に基づく発生状況、気象庁の1か月予報などを総合的に判断しています。根拠の（+）は助長要因、（-）は抑制要因、（±）は傾向維持であることを示しています。

なし	黒星病	発生時期 並	【現況】 ・－
		発生量 並*	【根拠】 ・2月の気温は平年より低かったものの3月は高く、開花時期は平年並と予想される。(±) ・前年秋期の発生量は平年よりやや少なかった。(－) ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。(±)
			【防除上の注意】 ・開花から2週間後までの降雨は発生を助長するので、重点的に防除する。 ・耐性菌発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 発生時期、発生量の予想は、巡回調査に基づく発生状況、気象庁の1か月予報などを総合的に判断しています。根拠の(+)は助長要因、(-)は抑制要因、(±)は傾向維持であることを示しています。

ト マ ト	灰色かび病	発生量	【現況】 ・発生量は平年よりやや少ない。
		やや少	【根拠】 ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。(±)
			【防除上の注意】 ・多湿により助長されるので換気に留意し、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・耐性菌発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。
	葉かび病	発生量	【現況】 ・発生が散見される。
		やや少	【根拠】 ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。(±)
			【防除上の注意】 ・多湿により助長されるので換気に留意し、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・耐性菌発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。
	黄化葉巻病	発生量 並	【現況】 ・発生が散見される。
			【根拠】 ・3月のコナジラミ類の発生量は平年よりやや多い。(＋)
			【防除上の注意】 ・「 病害虫診断のポイントと防除対策 」を参考に防除対策を行う。
	コナジラミ類	発生量 やや多	【現況】 ・発生量は平年よりやや多い。
			【根拠】 ・1か月予報では、気温は平年より高い。(＋)
			【防除上の注意】 ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病の病原ウイルス (TYLCV) を媒介するので、同病がみられたほ場では防除を徹底する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 発生時期、発生量の予想は、巡回調査に基づく発生状況、気象庁の1か月予報などを総合的に判断しています。根拠の(＋)は助長要因、(－)は抑制要因、(±)は傾向維持であることを示しています。

きゅうり (施設栽培)	べと病	発生量	【現況】 ・発生が散見される。
		やや少	【根拠】 ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。(±)
			【防除上の注意】 ・多湿により助長されるので、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・耐性菌発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。
	うどんこ病	発生量	【現況】 ・発生量は平年並。
		並	【根拠】 ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。(±)
			【防除上の注意】 ・やや乾燥した条件により助長されるので、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・耐性菌発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。
	褐斑病	発生量	【現況】 ・発生が散見される。
		やや少	【根拠】 ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。(±)
			【防除上の注意】 ・高温多湿により助長されるので、ハウス内の温湿度管理に注意する。 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・耐性菌発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。
	アザミウマ類	発生量	【現況】 ・発生が散見される。
		並	【根拠】 ・1か月予報では、気温は平年より高い。(＋)
			【防除上の注意】 ・ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病の病原ウイルス(MYSV)を伝搬するので、初期防除を徹底する。 ・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。
コナジラミ類	発生量	【現況】 ・発生が散見される。	
	並	【根拠】 ・1か月予報では、気温は平年より高い。(＋)	
		【防除上の注意】 ・タバココナジラミはキュウリ退緑黄化病の病原ウイルス(CCYV)を伝搬するので、初期防除を徹底する。 ・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。	

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 発生時期、発生量の予想は、巡回調査に基づく発生状況、気象庁の1か月予報などを総合的に判断しています。根拠の(＋)は助長要因、(－)は抑制要因、(±)は傾向維持であることを示しています。

いちい	灰色かび病	発生量 並	【現況】 ・発生量は平年並。
			【根拠】 ・1 か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。(±)
			【防除上の注意】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・耐性菌発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。
	うどんこ病	発生量 並	【現況】 ・発生量は平年並。
			【根拠】 ・1 か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。(±)
【防除上の注意】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・耐性菌発現を避けるため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。			
アザミウマ類	発生量 多	【現況】 ・発生量は平年より多い。	
		【根拠】 ・1 か月予報では、気温は平年より高い。(＋)	
		【防除上の注意】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・ミツバチに影響する薬剤は、使用時期に十分注意する。 ・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。	
アブラムシ類	発生量 やや多	【現況】 ・発生量は平年並。	
		【根拠】 ・1 か月予報では、気温は平年より高い。(＋)	
		【防除上の注意】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・ミツバチに影響する薬剤は、使用時期に十分注意する。 ・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。	
ハダニ類	発生量 やや多	【現況】 ・発生量は平年並。	
		【根拠】 ・1 か月予報では、気温は平年より高い。(＋)	
		【防除上の注意】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・ミツバチに影響する薬剤は、使用時期に十分注意する。 ・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。	

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前 10 年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ※ 過去 10 年間で予報月に発生が確認されていない病害虫については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、予報月の平年値（埼玉県の前 10 年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 発生時期、発生量の予想は、巡回調査に基づく発生状況、気象庁の 1 か月予報などを総合的に判断しています。根拠の(＋)は助長要因、(－)は抑制要因、(±)は傾向維持であることを示しています。

コナジラミ類	発生量 多	【現況】 ・発生量は平年より多い。
		【根拠】 ・1か月予報では、気温は平年より高い。(＋)
		【防除上の注意】 ・早期発見に努め、発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する。 ・ミツバチに影響する薬剤は、使用時期に十分注意する。 ・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の過去10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 発生時期、発生量の予想は、巡回調査に基づく発生状況、気象庁の1か月予報などを総合的に判断しています。根拠の(＋)は助長要因、(－)は抑制要因、(±)は傾向維持であることを示しています。

茶	チャノホソガ (第1世代幼虫)	発生量	【現況】 ・－
		並	【根拠】 ・前年秋の発生量は平年並。(±) ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。(＋)
			【防除上の注意】 ・防除所発表のフェロモントラップデータを参考に、三角葉巻が目立つ前に早めに摘採するか、薬剤による防除を実施する。 ・昨年秋に発生が多かった園では、特に注意し、観察する。
	カンザワハダニ	発生量	【現況】 ・発生量は平年より多い
		やや多	【根拠】 ・県予察ほ場での発生量は平年並。(－) ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。(＋)
			【防除上の注意】 ・茶園の裾部や茶畝の南側・西側の日が良く当たるところを観察し、発生状況を確認し、薬剤による防除を実施する。 ・抵抗性害虫の発生を防ぐため、作用機構が同じ剤の連用を避ける。
	ツマグロアオ カスミカメ	発生量	【現況】 ・－
		やや多	【根拠】 ・県予察ほ場では、昨年秋の発生量が多かった。(＋) ・1か月予報では、気温は平年より高い、降水量はほぼ平年並。(＋)
			【防除上の注意】 ・一番茶芽の生育初期に、新芽に赤褐色の細かい斑点が生じる被害芽が多く確認されたら、速やかに薬剤による防除を実施する。

(参照 HP)

病虫害診断のポイントと防除対策：<http://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

表の見方について

- ・ 予報の発生量は、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
- ※ 過去10年間で予報月に発生が確認されていない病虫害については、「発生が見られない」と予想した場合、予報の発生量を「並」と示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病虫害に限り、予報月の平年値（埼玉県の前10年間の平均）との比較で、「早、やや早、並、やや遅、遅」の5段階で示しています。
- ・ 発生時期、発生量の予想は、巡回調査に基づく発生状況、気象庁の1か月予報などを総合的に判断しています。根拠の(＋)は助長要因、(－)は抑制要因、(±)は傾向維持であることを示しています。

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。
特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、
周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正
な方法で散布する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 6 農薬の最新情報は、農薬登録情報提供システム（農林水産省）から検索できます。
農薬登録情報提供システム（農林水産省） <https://pesticide.maff.go.jp/>

2 気象概要 1 か月予報 (令和4年3月24日発表)

出典：気象庁ホームページ (https://www.jma.go.jp/bosai/season/data/pdf/P1M/010300.pdf)

<予報のポイント>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間のはじめは、気温がかなり高くなる見込みです
- ・向こう1か月の降水量と日照時間はほぼ平年並ですが、1週目は低気圧や前線の影響を受けやすく、2週目は高気圧に覆われやすいでしょう。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気 温】 関東甲信地方	10	40	50
【降 水 量】 関東甲信地方	30	40	30
【日照時間】 関東甲信地方	30	40	30

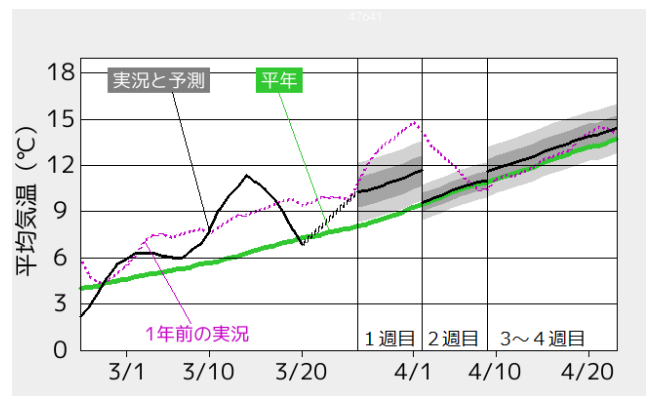
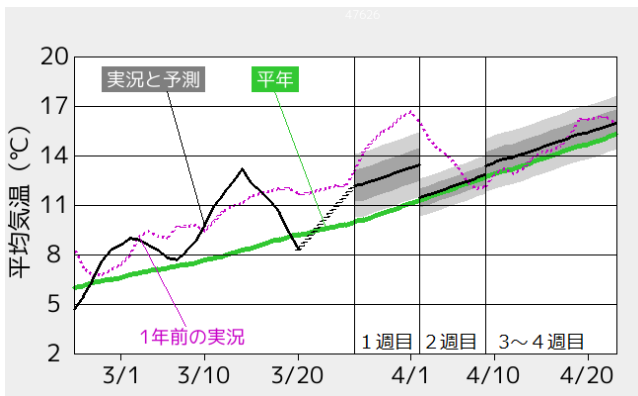
凡例： ■ 低い (少ない) ■ 平年並 ■ 高い (多い)

(参考資料1) 1 か月予報による気温の見通し (地点ごと)

熊谷

2022年3月24日発表 1 か月予報

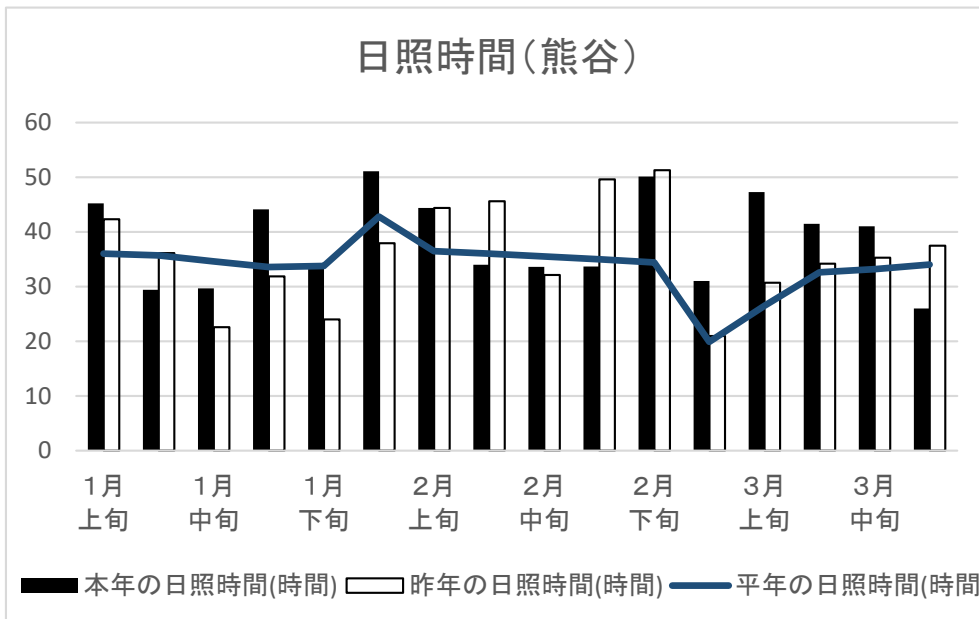
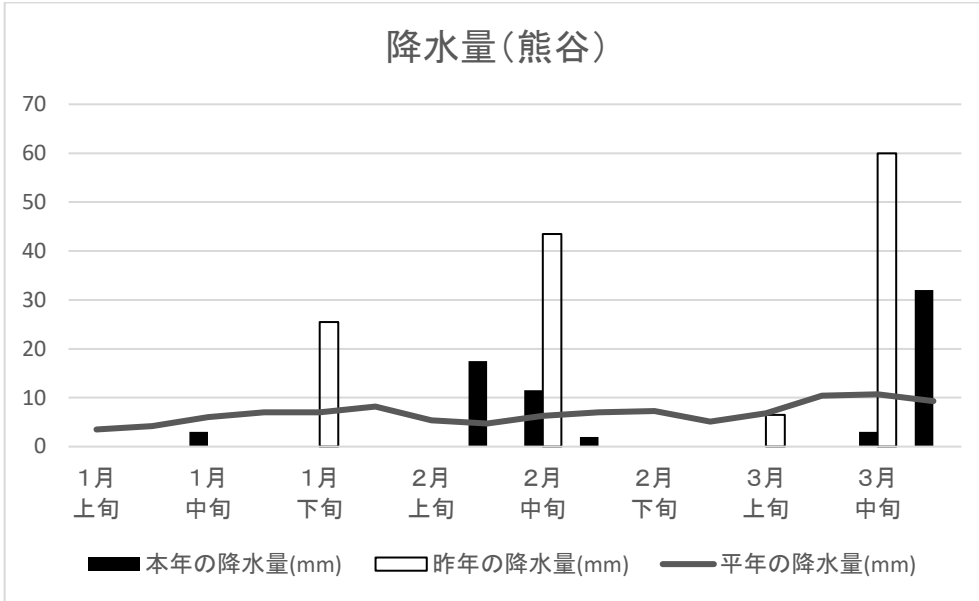
2022年3月24日発表 1 か月予報



図の見方

- 今年の実況(黒色の太い実線) ——
7日間の平均気温(プロットする日からみて3日前から3日後までの7日間の平均気温)を示しています。
- 予想(太い実線と網かけ) ——
予想の気温は、週別の平均的な気温の見込みを太線で表しています。また、信頼の程度が40%の幅を濃い網掛けで、70%の幅を薄い網掛けで示しています。>>> [詳細](#)
- 平年値(緑色の太い実線) ——
平年値(1981~2010年の30年間の平均)を緑色の太い実線で示しています。
- 昨年の実況(紫色の点線) - - - -
昨年の実況値(7日間平均気温)を紫の点線で示しています。

(参考資料2) 過去の降水量と日照時間



☆手洗いでウイルス対策！！☆
 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、
 農作業開始前後には、手洗い、手指の消毒を徹底しましょう。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/tearaiurusutaisaku.html>

問い合わせ先
 埼玉県病害虫防除所
 〒360-0102 埼玉県熊谷市須賀広 784
 電話：048-539-0661 FAX：048-539-0663
 E-mail：k3603114@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/b0916/>